



TITLE:

現代農業における資本主義の一般
法則の貫徹と集約的・商業的農業
の成長 - U. S. Census of Agriculture.
1959の分析(2) -

AUTHOR(S):

中野, 一新

CITATION:

中野, 一新. 現代農業における資本主義の一般法則の貫徹と集約的・商業的農業の成長 -
U. S. Census of Agriculture. 1959の分析(2) -. 経済論叢 1968, 101(3): 284-304

ISSUE DATE:

1968-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/133257>

RIGHT:

昭和二十七年二月一日 第三種郵便物認可
昭和二十四年六月三日国有鉄道特別承認雑誌第一一九九号

經濟論叢

第101巻 第3号

経営学の基礎理論を求めて 山 本 安 次 郎 1

ロスとダンロップの賃金論 (1) 赤 岡 功 26

現代農業における資本主義の一般法則の
貫徹と集約的・商業的農業の成長 中 野 一 新 44

価値尺度の価格標準への転形 葛 西 孝 平 65

昭和 43 年 3 月

京 都 大 学 經 済 學 會

現代農業における資本主義の一般法則の 貫徹と集約的・商業的農業の成長

—U. S. Census of Agriculture, 1959 の分析 (2)—

中 野 一 新

現代アメリカ農業における賃労働と生産手段（機械と肥料）の集積・集中、農業における資本主義の一般法則の貫徹を実証した前稿（「現代アメリカ農業の資本主義的性格—U. S. Census of Agriculture, 1959 の分析 (1)—」，本誌，第101巻第2号所収）をうけて，本稿ではさらにたち入って，大経営による生産の集積・集中と，農業の資本主義化の多様な形態，不均等な発展過程（とくに，高度に集約的な商業的農業の急速な成長過程）をセンサス資料にもとづいて検討する。そして最後に，いま一度，われわれの検討した事実の語るところを，当面の論争点とのかかわりあい総括することにした。

I 資本主義的経営による生産の集積・集中

〔経済階層別〕 農産物の販売額を指標として経済階層別に¹⁾，農業生産における集積・集中の過程を分析するところからはじめよう。第1表に示されるように，1959年にはアメリカ全体では農場総数370.8万のうち10.2万農場が農産物を年間4万ドル以上販売し，21.0万農場が2万～4万ドルの農産物を販売している（以下，各々クラスをI，IIと略す）。クラスIの2.8%の農場が農産物販売総額の31.5%，クラスIIの5.7%の農場が18.4%を占めている。つまり，農産物を2万ドル以上販売する8.5%の農場が，販売総額のちょうど半分を担っているのである。さらに，0.5%の大規模経営（約2万農場）が農産物を10万ドル以上販売し，販売総額の約20%を集中している²⁾。他方，44%を占めるクラスVI以下の農場

1) 前稿，50ページ，註14) 参照。

2) 1959 Census, p. 1200.

第1表 各地域における農場と農産物の経済階層別分布

経済階層		経済階層別の農場数および販売額								クラス I の平均 販売額 百ドル
地域		総数	I	II	III	IV	V	VI	その他の 農場	
合衆国	農場数	100.0	2.8	5.7	13.0	17.6	16.7	9.4	34.8	945
	販売額	100.0	31.5	18.4	21.9	15.4	7.4	1.5	3.8	
北 東 部	農場数	100.0	3.0	8.2	17.6	18.2	12.9	4.2	35.9	775
	販売額	100.0	25.2	23.6	26.9	14.6	5.3	0.6	3.8	
	農場数	100.0	2.3	6.7	18.7	24.7	18.2	5.4	24.0	740
	販売額	100.0	18.9	20.1	29.1	20.4	7.7	0.9	2.9	
南 部	農場数	100.0	1.9	3.3	6.8	11.7	16.9	14.9	44.6	885
	販売額	100.0	31.0	16.2	16.9	14.9	11.0	3.5	6.5	
西 山 地	農場数	100.0	6.8	11.2	18.8	18.9	13.8	5.0	25.4	1116
	販売額	100.0	48.2	19.6	17.3	8.9	3.3	0.4	2.3	
	農場数	100.0	10.1	10.3	10.2	13.1	10.8	3.5	39.0	1315
	販売額	100.0	66.8	14.7	9.6	4.9	2.1	0.2	1.7	

1959年センサス, pp. 1226, 1231 より作成。

は、販売総額のわずか5.3%を担っているにすぎず、一農場平均の販売額も1,300ドル(クラスVI)でクラスI(94,500ドル)の70分の1以下である。

以上のようにアメリカの農業生産の大半が、前稿で検出した賃労働者を大量に使用する資本主義的経営によって集積・集中されている。

〔地域別〕 この生産の集積・集中は、地域や農産物によって著しい特徴を示している。まず、農産物を2万ドル以上販売する大経営を、地域別に比較してみよう。農場数の一番多い中西部(農場総数の39%)にクラスIの33%、クラスIIのうちの47%の農場が集中しており、一見、中西部の農業は大経営が多いようにみえる。しかし、第1表により地域別にクラスI、II農場の分布を比較すると様相は一変する。高度に集約的な太平洋岸諸州では、農場総数の10%がクラスI農場であり、これらの農場が農産物販売総額の67%を集中している。農

場数の20%, 販売総額の82%がクラスⅠ, Ⅱに集中し, ここでは5農場のうち1農場は2万ドル以上販売する大規模農場である。太平洋岸諸州について大経営の多い地域は山地諸州(クラスⅠ, Ⅱ計18%)と東北部(11%)で, 前者は農産物販売額の68%, 後者は49%を集中している。南部では, シェア・クロッパ (share-cropper) を典型として零細経営が多く(農場総数の6割がクラスⅤ以下), クラスⅠ, Ⅱの大経営はごく少数(5.2%)だが, 大プランテーションや一部の集約的農場(とくに, フロリダ州のそれ)が, 販売総額の半数近く(47%)を集中している。これに対し, 中西部では2万ドル以上販売する大経営の比重が低く(9%), 販売額の集中度も4割弱にすぎない。ここでは販売額2,500~1万ドルの階層(クラスⅢ~Ⅴ)が農場数(62%)でも販売額(57%)でも大半を占めており, 小規模な家族農場の多い中西部の特徴をよく物語っている。

さらに, 州別に大規模農場の分布を比較すると, アメリカ全体のクラスⅠ農場(10.2万農場)の14.2%がカリフォルニア一州に集中しており, クラスⅠの販売総額の約5分の1を一州で担っている。クラスⅠ農場はカリフォルニア, テキサス(11.3%), アイオワ(7.9%), イリノイ(5.6%)の4州に39%, クラスⅡ農場も33%が集中している。

また, クラスⅠ農場の平均販売額によっても, 大経営の地域による不均等性が明白である。集約的農業の発展している太平洋岸諸州では13.2万ドルと最も高く, 山地諸州(11.2万ドル)がこれにつづく。中西部では7.4万ドルと大経営の規模も相対的に小さい。州別では, アリゾナ(20.0万ドル), フロリダ(16.5万ドル), カリフォルニア(14.8万ドル)の3州が, 他地域からぬぎんでている。

以上のように農業生産の面からも地域的な不均等発展がはっきりとうかがわれる。前稿ですでに実証したように賃労働や生産手段を圧倒的に集積・集中する資本主義的大経営の多い地域——太平洋岸諸州を筆頭に, 集約的・商業的農業の発展している地域——では, 生産の集積・集中も顕著に進んでいる。

〔農場の型別〕 次に農場の型別³⁾に2万ドル以上販売する大規模農場につ

3) 前稿, 52ページ, 註15) 参照。

いて検討しよう。農場数の多い肉畜 (25.5%), 商業的穀作 (16.5%), 酪農 (17.7%), 綿花 (10.0%) の4種類の農場(合計商業的農場総数の70%)が、クラスⅠ農場総数の6割, クラスⅡ農場の7割を占めている。とくに、農場総数の42%を占める粗放的な肉畜および商業的穀作農場は、クラスⅠの約4割, クラスⅡの約半数を占め、両農場がアメリカ農業のなかで圧倒的に優勢のようにみえる。

しかし、農産物別にクラスⅠ、Ⅱ農場の占める割合を比較すると一変する(第2表)。粗放的な商業的穀作や畜産農場ではクラスⅠの大経営は総農場の2

第2表 各農場の型による農場と農産物の経済階層別分布

経済階層		経済階層別の農場数および販売額							クラスⅠ の平均 販売額
農場の型		総数	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	
商業穀作	農場数	100.0	2.7	9.3	25.4	31.3	23.2	8.1	686 百ドル
	販売額	100.0	16.8	22.1	31.7	20.6	7.8	1.0	
商 業 作 物	綿 花	農場数	100.0	5.4	6.6	10.1	15.7	27.7	872
		販売額	100.0	46.8	16.3	12.8	10.2	9.3	
	野 菜	農場数	100.0	12.5	11.6	16.1	19.1	20.7	1731
		販売額	100.0	73.3	11.0	7.7	4.7	2.6	
	果 物	農場数	100.0	10.7	14.5	20.8	23.6	21.5	1105
		販売額	100.0	54.4	18.7	14.1	8.4	4.0	
畜 産	酪 農	農場数	100.0	2.0	7.6	26.5	34.1	22.7	830
		販売額	100.0	15.3	18.6	33.9	23.2	8.0	
	肉 畜	農場数	100.0	4.8	10.3	20.1	26.1	25.4	929
		販売額	100.0	33.9	21.5	21.7	14.6	7.2	

1959年センサス, pp. 1328-1435 より作成。

～5%にすぎず、2万ドル以上販売する農場も10～15%である。これに対して、野菜や果物など高度に集約的な農場では大規模なクラスⅠ農場の割合はるかに高く、野菜13%、果物11%である。2万ドル以上販売する農場は各々24、25%で総農場の4分の1が大規模農場である。

さらに、高度に集約的な野菜や果物生産では少数の大経営に生産が専門化 (specialization) されている。2万ドル以上販売する5,270 (24%) の野菜農場は販売総額の84%を集中しており、クラスⅠの平均販売額も17.3万ドルと商業的穀作農場 (6.9万ドル) の2倍以上である。また、約15,500 (25%) の果物農場も販売額の73%を占め、平均販売額は11.0万ドルである。さらに貧富の差のはげしい綿花農場でも、2万ドル以上販売する29,200農場 (12%) が販売総額の約3分の2を占めている。また、大経営の割合の少ない肉畜や酪農農場でも、4万ドル以上販売する各々29,400 (4.8%)、8,500 (2.0%) の農場が販売総額の34%と15%を集中している。この8,500の酪農農場の約60%が乳牛を100頭以上飼育している⁴⁾。

以上のように、集約的な作物、粗放的な作物をとわず、少数の大経営が総生産の多くを集中し、各生産部門の主導権を握っているが、とくに、野菜や果物など賃労働や生産手段を大経営に大量に集中する高度に集約的な商業作物は、農業生産においても少数の大経営による集積・集中がきわだっている。

Ⅱ 商業的農業の成長

この節では、20世紀初頭以来、アメリカ農業がどのような方向へ発展しているかを明らかにしよう。ところで、1910年代、レーニン⁵⁾は当時のアメリカ農業に関する一般的見解⁶⁾を批判して、アメリカの農業は二様の形態——すなわち、粗放的な地方で土地面積を拡大することによって発展する道と、集約的な地方で、土地面積はわずかだが旧来の土地面積に投下される資本額の増大によって商業作物を中心に発展する道——で進化しており、しだいに後者がその「主要な進

4) 1959 Census, p. 1267.

5) 当時のブルジョア経済学者は一般に、アメリカ農業について次のように考えていた。粗放的な穀物生産を中心とする中部北西諸州がアメリカ農業の「模範的な」地域であり、農業生産が最も発展している地域である。他方、農場の平均面積が年々縮小しているニュー・イングランドや大西洋岸中部諸州では、「資本主義的農業は崩壊しつつあり」「生産は細分され零細化しつつある」と。В. И. Ленин, Новые данные о законах развития капитализма в земледелии, I. Капитализм и земледелие в США, Сочинения, 4 изд., том 22, 「農業における資本主義の発展法則についての新資料, 第一分冊, アメリカ合衆国における資本主義と農業」【以下「新資料」と略】、「レーニン全集」第22巻, 31, 42ページ。

路」となりつつあることを指摘した⁶⁾。だが今日再び、中西部の粗放的な穀物生産が現代アメリカ農業の典型であり、農業生産の最先進地域であるとする見解がみられることは、すでに前稿冒頭でふれた。果して、最近のアメリカ農業はどのような方向へ発展しているのだろうか。

まず、最近10年間の農業生産に占める各地域の比重の変化をみてみよう(第3表)。アメリカ全体の農産物販売額は10年間に222億ドルから305億ドルへ37

第3表 農産物販売額の年次別変動(単位 100万ドル)

地域	販売額		構 成 比		59/49
	1949	1959	1949	1959	
合 衆 国	22.217	30.493	100.0%	100.0%	137.3
北 東 北 部	1.922	2.292	8.7	7.5	119.2
中 西 部	9.734	13.002	43.8	42.7	133.6
南 部	6.359	8.884	28.6	29.1	139.7
西 山 地	1.631	2.356	7.3	7.7	144.5
太 平 洋 岸	2.405	3.803	10.8	12.5	158.2

1959年センサス、p. 975 より作成。

り、とりわけ東北部(19%)の停滞は著しく、かつての最先進地域の農業生産に占める比重は年々低下している。

1909年には、当時最も農業の資本主義化が進んでいた東北部は、農業生産総価額の11%を占め、太平洋岸諸州は5%にすぎなかった⁷⁾。半世紀後の1959年には前者は7.5%、後者は12.5%(ただし1959年は農産物販売額の比較)となり、両地域の地位が完全に逆転した。北部全体の比重も、依然として中西部を中心にアメリカ農業の一大産地となっはいるが、レーニンの時代の61%(85億ドル中52億ドル)⁸⁾から50%に低下している。

6) レーニン「新資料」71ページ。

7) レーニンの資料加工方法に準じて、1910年センサスより計算。(В. И. Ленин, Тетради по аграрному вопросу 1900-1916, Сочинения, 4 изд., том 40, 農業ノート, 「レーニン全集」第40巻, 414ページ参照。)

8) レーニン「農業ノート」414 ページ。

%増大したが、最も増加率の高いのは太平洋岸諸州(58%),とりわけカリフォルニア州(62%)である。粗放的な山地諸州(45%)や資本主義化の最も遅れている南部(40%)の急速な成長もめだっている。他方、北部全体は31%と停滞ぎみであ

さらに州別に農産物販売総額に占める割合をみると、太平洋岸諸州のカリフ

第4表 農産物価額の年次別構成比

農産物		年 度	1909	1959
総 価 額			100.0%	100.0%
耕 種 物	とうもろこし		16.8	5.8
	穀 物			
	小 麦		7.7	5.7
	大 麦		1.1	0.8
	オ ー ト 麦		4.9	0.6
	乾 草		9.6	1.2
	そ の 他		1.9	0.6
	計		42.0	14.7
	商 業 作 物			
	野 菜		4.9	2.4
畜 産	園 芸 作 物			2.0
	果 物		2.6	4.6
	大 豆	N. A. (1)	3.2	
	タ バ コ		1.2	3.1
	綿 花		9.6	7.7
	そ の 他		1.6	5.7
	計		19.9	28.7
	そ の 他		2.3	0.6
	耕 種 小 計		64.2	44.0
	肉 畜		22.3	35.4
畜 産	酪 農		7.7	13.2
	家 禽		5.9	7.4
	畜 産 小 計		35.9	56.0

1959年は1959年センサス, pp. 960-61 より;
1909年は1910年センサス, pp. 476-520, p. 532
より作成。但し1909年は生産価額, 1959年は
販売価額の構成比。

(1) 1909年は分類なし。

ォルニアが9.3%, 中西部のアイオワ州7.5%, イリノイ州5.9%, 南部のテキサス州6.9で4州合計29.6%, すなわちこの4州でアメリカ農業生産全体の3割を担っている。この点からも単に九地域間だけでなく、各地域間でも州ごとに農業発展の非常な不均等性がみられる。

ついで、1909年と1959の農産物価額の構成比によって、半世紀間における農業生産全体に占める主要な農産物の地位の変化を比較しよう(第4表)。

この表からえられる第1の特徴は、耕種作物(crops)の比率が低下し、畜産のウエイトが増大したことである。1909年には前者が64%, 後者が36%だったが、1959年には前者が44%, 後者が56%と両者の地位が完全に逆転し、畜産物が農業生産全体の半数をこえるにいたった。今やアメリカの畜産は後述するように農業生産全体において非常に重要な地位を担うにいたっている。

第2の特徴は、穀物(小麦・大麦)および飼料作物(とうもろこし⁹⁾・乾草・オート麦)の比重が大きく低下し、商業作物(園芸作物・果物・大豆¹⁰⁾・タバコなど)の生産が急速に成長したことである。粗放的な穀物や飼料作物にくらべ、商業作物、ことに高度に集約的な商業作物

(野菜・園芸作物・果物・てんさい・砂糖きび・米など)の成長が著しい。1909年には前者が42%後者は20%にすぎなかったのに、その後の50年間に前者は15%と3分の1近くに減り後者は29%と大巾に増加し(綿花をのぞけば10%から21%へ2倍以上)、商業作物は穀物および飼料作物を完全に凌駕した。

このように現代アメリカ農業は粗放的な農業にくらべ、集約的農業、とくに高度に集約的な商業的農業が急速に成長している。農業の集約的發展が、アメリカ農業の「主要な進路」であると規定したレーニンの見解は、商業作物が粗放的な穀物や飼料作物を凌ぐにいたった現在、ますますその正しさを証明しており、中西部の粗放的な穀物生産をアメリカ農業の典型とみなす見解は、アメリカ農業の最近50年間の發展方向と全くあいられないものである。

Ⅲ 主要農産物の地帯分布

アメリカ農業の地域性の問題でも、レーニンと近説は大きく異なる。20世紀初頭レーニンは、アメリカ農業全体の資本主義的な發展過程で、農業は多様な形態をとり不均等に發展することを強調したが、近説は、機械化による農業生産の發展過程で地域的な特殊性はうすれ、現代アメリカ農業は全国的な「均質化」の傾向を孕んでいると主張する。我々は主要農産物の地帯分布の考察によって、この問題に対する解答をあたえよう(アメリカの農業地帯図および第5表)。

まず第1に穀物地帯の考察からはじめよう。穀物生産は非常に広範な地域に分散しているが、小麦地帯ととうもろこし地帯がその中心である。小麦生産の中心地は南北にのびる雨量の少ない大平原地帯(Great Plains)で、通常ウィート・ベルトと呼ばれている。東からのびるコーン・ベルトと西からのびる放牧地帯に両断されており、オクラホマの西部からカンザスをおおう南の秋播小麦地帯と、北ダコタ、モンタナの北東部、南ダコタの北東部をおおう北の春播

9) 現在では、とうもろこしは飼料だけでなく、コーン・スターチ、オイル、シロップ、アルコールなど工業原料としても広く利用される(Harold Bargar and Hans H. Landsberg, *American Agriculture, 1899-1939: A Study of Output, Employment and Productivity*, 1942, 馬場啓之助・山口辰六郎訳, 「アメリカ農業の成長分析」昭和32年, 47-48ページ参照)。

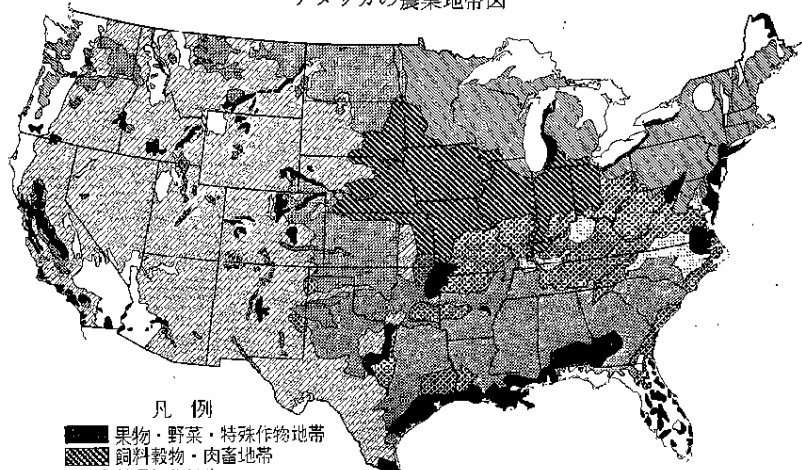
10) 大豆は第一次大戦後、とりわけ1920年代末から油料作物として商業的に重要な作物になってきた(バーガー・ランズバーグ, 前掲訳, 100ページ参照)。

第5表 主要農産物価額の地域別分布

農産物 地域		穀物および飼料				商業作物					畜産		
		小麦 ⁽¹⁾	大麦 ⁽¹⁾	とうもろこし ⁽¹⁾	大豆 ⁽¹⁾	綿花 ⁽¹⁾	タバコ ⁽¹⁾	野菜 ⁽²⁾	園芸作物 ⁽²⁾	果物 ⁽²⁾	酪農 ⁽²⁾	家禽 ⁽²⁾	肉畜 ⁽²⁾
総 額		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
北 部	東 北 部	2.0	1.6	3.5	0.3	—	4.0	12.3	26.7	8.1	24.0	17.8	2.5
	中 西 部	55.8	35.0	80.2	74.3	3.5	2.8	13.1	22.1	7.1	42.6	26.2	58.6
南 部	大西洋岸南	2.3	3.2	6.9	6.7	9.0	65.6	17.4	14.8	28.4	8.6	22.4	4.7
	中部南東	0.9	0.8	5.4	7.3	21.8	27.6	1.6	4.0	1.0	4.8	9.2	4.9
	中部南西	13.0	4.3	1.8	11.5	45.1	—	5.3	4.7	2.2	5.1	10.1	10.9
西 部	山 地	15.7	22.7	1.2	—	7.6	—	7.9	3.1	2.1	3.8	2.2	10.9
	太平洋岸	10.3	32.4	0.9	—	13.0	—	42.0	19.1	50.7	10.9	11.9	7.4
主 な 生 産 州	1 位	カンザス 19.2	カリフォルニア 20.2	アイオワ 18.1	イリノイ 23.6	テキサス 28.2	北カロライナ 39.3	カリフォルニア 36.3	カリフォルニア 14.9	カリフォルニア 41.5	ウィスコンシン 12.9	カリフォルニア 9.3	アイオワ 14.4
	2 位	北ダコタ 9.8	北ダコタ 16.6	イリノイ 16.7	アイオワ 11.7	カリフォルニア 13.0	ケンタッキー 20.7	フロリダ 11.1	ペンシルバニア 9.6	フロリダ 23.2	ニューヨーク 10.2	ジョージア 7.3	イリノイ 7.9
	3 位	オクラホマ 7.9	モンタナ 9.3	ネブラスカ 7.7	インディアナ 11.2	ミシシッピ 11.8	南カロライナ 8.6	アリゾナ 5.0	オハイオ 8.2	リントン 6.1	カリフォルニア 8.0	ペンシルバニア 5.1	テキサス 7.1

1959年センサス、pp. 975-991 より作成。(1)は生産価額、(2)は販売価額の構成比。

アメリカの農業地帯図



凡 例

- 果物・野菜・特殊作物地帯
- ▨ 飼料穀物・肉畜地帯
- ▩ 普通畑作地帯
- ▧ 綿作地帯
- ▦ 小麦・小粒穀物地帯
- ▤ 酪農地帯
- ▥ 放牧地帯
- ▧ たばこ・普通畑作地帯
- 非農業地帯

U. S. Census of Agriculture, 1959.
Vol. V, Part 6, Chap. 1, p. 17.

小麦地帯に分れている。このほかに西部の北の諸州に飛地がある。ウィート・ベルトの大半を含む中西部は小麦の半分以上 (56%) を生産しており、とくにカンザス州は一州で約2割を担い、まさにアメリカの「小麦工場」の中枢になっている。

とうもろこしおよび大豆の主要生産地はコーン・ベルトと呼ばれる地帯である。五大湖の南側インディアナ州からはじまって西へ、イリノイ、アイオワ、ミズーリをおおい、カンザス、ネブラスカ、南ダコタの南側におよぶ大草原地帯である。コーン・ベルトの大半を占める中西部は、とうもろこし生産の80%、大豆生産の74%を集中しており、中西部の中心地イリノイ、アイオワ2州だけで総生産高のともに35%を担っている。

この小麦地帯およびとうもろこし地帯はアメリカ最大の穀倉地帯である。さ

らに、この地帯は後述するように豊富な飼料を利用して畜産の中心地にもなっており、粗放的な農業経営の典型的な地帯である。

商業作物の考察にうつろう。はじめに綿花とタバコ、ついで、高度に集約的な商業作物について検討する。

綿花農場は、北のケンタッキーおよび大西洋岸を除く南部全域と西部の灌漑地域に集中している。最大の中心地はミシシッピー・デルタ地帯¹¹⁾であるが、この地帯の比重は年々低下しており綿花地帯の西進がおきている。1909年には旧南部の2地域——大西洋岸南部諸州(36%)と中部南東諸州(25%)——で総生産の6割以上を担っていたが、1959年には両地域の生産は半減した(31%)。逆に、中部南西諸州は38%から45%に増大し、また、西部の2地域も2.7%から21%へ7倍以上も増加して、東の大西洋岸南部諸州をぬいて新しい産地になりつつある¹²⁾。最近5年間だけをとってみても、旧南部の大西洋岸南部諸州と中部南東諸州は34%から31%へ減少し、逆に、旧南部に隣接する中部南西諸州は43%から45%へ、太平洋岸諸州は11%から13%へ増加している。「綿作は略奪的に土地を疲弊さす作物であり、はじめから新しい土地をもとめて西方へ移動する傾向があったが、1940年代後半からは機械化の進行を背景として、西部の躍進と奴隷制の遺物を負う南部……の急速な後退がみられる」¹³⁾。かつての奴隷制の影響が今なお残っている旧南部やテキサス州東部のデルタ地帯は、シェア・クロップパーにまだ多く依存している¹⁴⁾。これと対照的に、灌漑の発達しているテキサス州西部の大平原地帯や西部のカリフォルニア・アリゾナ両州では、摘取作業の機械化が広範に普及し、高度に資本主義的な綿花経営が行われている。かつての綿花の最大の産地ミシシッピー州は第3位に転落し(12%)、西方のテキサス(28%)、カリフォルニア(13%)が第1位、第2位になっている。この両州で生産の4

11) ミシシッピー河左岸の中部南東諸州(ケンタッキー州はのぞく)の大部分の地域と、右岸の中部南西諸州の東部を含む広大な地域。(1959 Census, p. 1263参照)。

12) 1910年の数字は Department of Commerce, *Thirteen Census of the United States, 1910*, Vol. V, Agriculture, 1913, p. 681 より計算。但し、1910年は生産額の百分比である。

13) 鈴木圭介、農業における資本主義と農民階級の分解—アメリカ農業問題分析の一試論—、「現代、資本主義講座」第4巻、昭和34年、149-150ページ。

14) もちろん、旧南部でも大プランテーションの機械化が進み、資本主義的大経営も存在する。

割以上を占め、ここに綿花生産の新たな一大産地を形成しつつある。

タバコ農場はほとんどすべて南部に集中し、なかでも北カロライナ、南カロライナ、バージニア、ケンタッキー、テネシーの5州にタバコ農場の90%以上が集中している。北カロライナとケンタッキー両州は、タバコ生産総額の6割を占め、一地域への非常に集中度の高い作物である。

野菜および園芸作物は全国各地に分散しているが、最大の集中はカリフォルニアおよびフロリダの高度に集約的・商業的な農業地域と、ニュージャージー、ニューヨークなどの都市近郊地域である。とくに前者の比重が高く、野菜生産総額の約半分はカリフォルニア、フロリダの両州で生産されている。

果物および堅果 (nut) 農場は特定の地域に集中しているのが特徴である。最大の集中地域はカリフォルニア、フロリダ、ミシガン、ワシントンの4州で果物農場の3分の2以上を集中している¹⁵⁾。とくに、フロリダ州は最近5年間に16%から23%へと急速に成長した。果物生産の最大の産地カリフォルニア州(42%)とフロリダ州を合計すると65%になり、両州の集約的農業の顕著な発展がここにもうかがわれる。

このほかにも、じゃがいも、ピーナツ、砂糖きび、てんさいなどの典型的な商業作物があり、近年急速に成長している。じゃがいもは西部のアイダホ、カリフォルニアや集約的な東北部(メイン、ニューヨークなど)に集中している。ピーナツはジョージア、北カロライナ、バージニアなど南部とりわけ大西洋岸南部諸州に、砂糖きびはルイジアナとハワイ、てんさいはカリフォルニア、コロラド、アイダホなど西部の諸州に集中している¹⁶⁾。

最後に畜産関係の農業地帯を考察しよう。まず酪農・家禽経営について検討し、ついで粗放的な肉畜・牧畜経営について検討する。

酪農経営の中心は、大西洋岸の東北部から中部北東諸州の五大湖にいたる広

15) 品種ごとに集中度をみると一層著しい。カリフォルニア南部——オレンジ、レモン、オリーブ、ブドウ、桃、アーモンド。カリフォルニア北部およびワシントン州——林檎、梨、プラム、桃、くるみ、いちごなど種々の作物の組合せ。フロリダ州——オレンジとブドウ。ミシガン州——林檎、核桃、ブドウ、いちご (1959 Census, p. 1265 参照)。

16) *Ibid.*, p. 1264.

大な地域であり、この地域で酪農製品の50%を生産している。このほかに太平洋岸に大きな飛地がある。これらの諸地域のうち東部の諸地域、オハイオ、インディアナ北部、イリノイ、ウィスコンシン南東部、その他都市周辺地域では、生産物はおもに生ミルクとして販売され、その他の諸地域、とくに奥地ではバター、チーズなどの乳製品の原料乳として販売される¹⁷⁾。

畜産のなかで最も集約的な家禽農場は鶏肉および鶏卵が大半を占める。生産地域は各地に分散しているが、家禽農場の4分の3以上がミシシッピー河の東部にある。ことに最近10年間で、北部は、総生産に占める割合が61%から44%に減少したのに対し、ブロイラーをおもに生産している南部は24%から42%へと急速に増加し、家禽生産における北部と南部の地位が逆転しつつある。現在の最大集中地域はジョージア、アラバマ、ミシシッピーなど南部のブロイラー生産地域である¹⁸⁾。

販売額からみてアメリカ農業生産の最大部分を占める肉畜生産は、広大な地域に分散しているが、中心は中西部のコーン・ベルトと山地諸州の放牧 (ranch) 地帯である。コーン・ベルトの肉畜農場では、西の放牧地帯から犢や小羊を購入し、この地域で生産される飼料作物を利用して畜舎で肥育して、成牛をシカゴの畜産加工場へ販売する。肉畜生産が最も集中しているのはアイオワ、イリノイ、オハイオ諸州であり、前二者で22%を占めている。

放牧の集中地域はコロラド、モンタナなどの山地諸州、テキサス州のエドワード高原などである¹⁹⁾。

以上、主要産物の農業地帯を考察してきたが、最後に各農産物の主産地について検討しておこう。アメリカ最大の農業生産州であるカリフォルニア州は第5表にかかげた主要農産物12のうち5農産物(野菜、園芸作物、果物、家禽、大麦)で第1位を占め、上位1～3位までに7農産物が入っている。粗放的な作物および肉畜を除くすべての商業作物において主導的役割を果たしており、高度に集

17) *Ibid.*, p. 1267.

18) *Ibid.*, p. 1267.

19) *Ibid.*, p. 1268.

約的・商業的農業の最先進地たる特徴をはっきり示している。これに対して、中西部のアイオワ、イリノイ両州は粗放的な穀物や飼料作物・畜産において上位を占めており、これらの地域が粗放的農業の典型的な地域であることを示している。

第6表 各地域の主要農産物販売額構成比

地域	農産物	主 要 農 産 物 販 売 額						販売総額
		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位以下	
北 部	東北部	酪農 42.2	家禽 17.5	肉畜 11.4	園芸作物 7.2	じゃがいも 5.0	その他 16.7	100.0
	中西部	肉畜 48.6	酪農 13.2	とうもろこし 11.7	小麦 7.4	大豆 5.7	その他 13.4	100.0
南 部	大西洋岸 南部諸州	タバコ 19.1	肉畜 15.7	家禽 15.6	果物 12.2	酪農 10.7	その他 26.7	100.0
	中部南東 諸州	肉畜 26.6	綿花 25.9	タバコ 13.3	家禽 10.5	酪農 9.7	その他 14.0	100.0
西 部	中部南西 諸州	肉畜 32.2	綿花 28.8	小麦 6.3	家禽 6.2	酪農 5.6	その他 20.9	100.0
	山地諸州	肉畜 49.7	小麦 11.7	綿花 7.6	酪農 6.5	じゃがいも 4.4	その他 20.1	100.0
西 部	太平洋岸 諸州	肉畜 21.1	果物 18.6	酪農 11.5	野菜 8.2	綿花 8.0	その他 32.6	100.0

1959年センサス, pp. 975-985 より作成。

これまで農産物ごとにアメリカ農業の主要な生産地帯を分析してきた。最後に各地域ごとの主要農産物を農産物販売額を指標に比較してみよう(第6表)。この表から得られる最大の特徴は、どの地域でも畜産——肉畜、酪農、家禽——が主要な収入源になっていることである。大西洋岸南部諸州をのぞくすべての地域で、肉畜または酪農が最も主要な収入源になっている。先にもふれたように、畜産は1959年についてアメリカの農産物販売総額の半ばを越え、アメリカ農業全体でますます重要な産物になってきている。そして、この特徴は単に

畜産地帯だけでなく、アメリカ農業地帯全域にあてはまる。北部の両地域や山地諸州では5～7割、南部や最も商業的農業の発展している太平洋岸諸州でも4割以上が畜産から収入を得ている²⁰⁾。アメリカ農業は、各地域で非常に多様な形態をとっているが、それらはおおむね次の二つの組合せ——畜産と商業作物、畜産と穀物または飼料作物——のいずれかから成り立っている。東北部では畜産のなかでも集約的な酪農と家禽を中心に収入の7割近くを占め、残りの収入源は園芸作物、じゃがいも、果物（第6位、4.9%）など高度に集約的な商業作物である。最も資本主義的農業の発展している太平洋岸諸州でも収入の約6割を果物や野菜・綿花など商業作物によって確保し、残りの4割は畜産収入に依存している。南部では一般に肉畜および家禽と商業作物（大西洋岸南部諸州＝タバコと果物、中部南東諸州＝綿花とタバコ、中部南西諸州＝綿花）の組合せが支配的である。これに対して、アメリカの穀倉地帯＝中西部および山地諸州では、粗放的な肉畜が主要な収入源をなし、残りはとうもろこし・小麦など飼料作物と穀物の収入で補っている。今や多様な形態をとるアメリカ農業のなかで、畜産はどの地域でも決定的に重要な役割を担っている。

これまでの農業地帯の分析から明らかなように、広大な面積をもち、国内各地の自然的・経済的条件が大きく異なるアメリカでは、多種多様な農産物が全国各地に分布しており、まさに世界農業の一大展覧場の観を呈する。これらの農業地帯のなかでも、綿花やタバコ・果物などのように特定の地域に集中しているものと、穀物や肉畜・野菜生産などのように全国各地に分散しているものがある。また、畜産や各種の商業作物のように急速に成長している農産物と穀物やタバコのように停滞ぎみの農産物、同一作物でも綿花や家禽のように地域によって発展が不均等な作物もみられる。このように、アメリカ農業は全体として資本主義的に発展しているが、そのなかでは、各地域や農産物により複雑でいくつんだ動きを示している。ことに商業作物の成長とともにアメリカの農業生産は一層主産地への依存度が増大し、地域ごとの作物の専門化が進んでいる。

20) 太平洋岸諸州では 家禽が第6位（7.6%）で、畜産の総計は40%になる。

アメリカの農業地帯は全体としてみるなら、近説が指摘するような「均質化」傾向を孕んでいるのではなく、逆に、地域による農業生産の特殊性がますます増大しているのである。

I～III節では、① アメリカ農業における生産の集積・集中、② 集約的農業、とくに商業的農業の急速な成長、③ 地域や農産物の特殊性による農業の不均衡な発展と多様な形態について検討してきた。

結論を要約すると、第1に、現代アメリカ農業は全体として資本主義的に発展しており、その過程で賃労働を大量に集積する資本主義的大経営が生産量においても圧倒的に集積・集中を進めており、アメリカでは、大規模経営による農業生産がますます支配的になってきている。

第2に、アメリカ各地の農業生産の発展諸形態は、レーニンによって規定された「工業的な北部、かつての奴隷制的な南部……植民されつつある西部」という3つの型が基本的にその有効性を失っていないとはいえ、同時に、過去半世紀間にいくつかの重要な変化も生じている。具体的には、アメリカ農業は次のような方向へ発展している。すなわち、① 農業の資本主義化の主導的な地位は、東北部が衰退し、現在もっとも大量に賃労働者を使用し、急速に集約的な資本主義経営の成長している太平洋岸諸州へ移動した。② この成長と衰退の傾向は農産物にもあてはまる。停滞的な穀物や飼料作物にくらべ、賃労働者を広範に使用する集約的な商業作物が急速に成長し、後者がますますアメリカ農業の資本主義的発展の主要な進路になっている。また綿花や家禽などの農業地帯の移動にみられるように、同一作物でも地域によって反対の傾向をもつものがある。③ アメリカの農業生産がますます代表的な農業州——カリフォルニア、アイオワ、テキサス、イリノイ、フロリダなど——に集中し、アメリカの工業地帯と農業地帯の地域的分業が一層はっきりしてきている。④ 各農産物ごとに比較すると、野菜や果物などのようにとりわけ高度に集約的な作物は、自然的・経済的条件にめぐまれた地域へ集中する傾向があり、また各地域や各

農場は、有利な一種類の農産物の生産にますます専門化する傾向がある。以上のような移動・集中・専門化など地域や農産物間における農業の不均等発展の傾向は、まさに資本が競争し、より大きな利潤を獲得するためにとる傾向の現れであり、アメリカ農業全体が資本主義的に発展していることのないことの証左である。

IV 資本主義的経営による集積と集中——総括と結論——

1959年のアメリカ合衆国農業のセンサスは、資本主義諸国のうちで最良のものである。この材料にもとづいて、前稿および本稿のⅠ～Ⅲ節で、現代資本主義社会におけるアメリカ農業の進化の法則を具体的に検討してきた。本節では、現代のアメリカ農業とその進化の全貌を総括しなければならない。レーニンが「新資料」でつくった総括表の形式にしたがって、本稿でも3つの分類方法——経済階層（農産物販売額）による分類、地域による分類、農場の型による分類——を比較・対照する総括表を作成する²¹⁾。

この3つのちがった分類を比較するためには、各種の群の百分比をとらねばならない。われわれは各分類を3つの主要な群にまとめよう。経済階層別では、(1) 資本主義的農場（農産物販売額2万ドル以上、但し第7表の括弧内の数字は4万ドル以上販売する農場のみ）、(2) 中位の農場（5,000～2万ドル）、(3) 非資本主義的農場（5,000ドル未満）をとる。地域別では、(1) 集約的な地域の農場（太平洋岸諸州、東北部、ただし括弧内の数字は太平洋岸諸州のみ）、(2) 南部の農場（南部の3地域）、(3) 粗放的な地域の農場（山地諸州、中西部）をとる。農場の型による分類では、(1) 高度に資本主義的な農場（商業作物の農場＝野菜、果物、その他の畑作、種々のもの、綿花、タバコの農場、および酪農、家禽農場、ただし括弧内の数字は高度に集約的な野菜、果物、その他の畑作、種々のものの農場のみ）、(2) 中位の農場（商業的穀作、普通作農場）、(3) 低度資本主義的な農場（肉畜および牧畜農場、

21) くわしくは、レーニン「新資料」81-88ページ；「農業ノート」410-411ページ参照。ただし、レーニンは地域による分類のかわりに土地面積別分類を採用している。ここでは本稿で分析してきた地域による農業の不均等な資本主義発展を総括するため前者の分類を採用した。

その他の農場＝非商業的農場)をとる。

ついで、各群について、まず第1にアメリカ全体の農場総数に対する3つの主要な群の百分比をとる。つぎに同様の方法で総土地面積の百分比をとる。土地面積は経営の粗放度の指標として役だち、もし総土地面積の百分比が農場数の百分比をこえるとすれば、平均的な農場よりも大きな農場である。

さらに経営の集約性の指標として、機械を代表させたトラクター所有台数と肥料使用量をとる。これらの比率が土地面積の比率よりも多ければ、集約度は平均より高いという結論がえられる。最後に経営の資本主義的性格を決定するために賃労働者数について、また生産の規模を決定するために農産物販売総額について百分比をとる。

このようにして第7表が作成される。そこでこの総括表の説明と検討にうつろう。

まず経済階層別分類からはじめよう。8.5%の資本主義的経営(農産物販売額2万ドル以上の経営)が、トラクター総台数の20%、肥料の37%を使用しており、賃労働者は半数以上、農産物はちょうど半分がこの大経営の手に集中されている。一農場当りで計算すると賃労働者数は平均の6倍以上(農場数の8.5%に対して52%)、農産物でも約6倍である。とくに4万ドル以上販売するわずかに2.8%の資本主義的大経営は、賃労働者総数の35%、農産物の32%を集中しており、一農場当りではともに平均の10倍以上になっている。他方の極には農場総数の6割以上を占める非資本主義的農場がある。この農場は土地面積全体の約4分の1をもつが、土地生産性は平均よりはるかに低く、賃労働者の17%、農業生産のわずか13%を占めるにすぎない。一農場当りでは賃労働者数は平均の4分の1(農場数の61%に対し17%)、農産物販売額は5分の1である。このように大経営は小経営を駆逐し、賃労働者も農産物や生産手段も完全に集積・集中しており、資本主義的経営はアメリカ農業生産において支配的地位にある。

第2に地域による分類を考察する。集約的な地域(太平洋岸諸州と東北部)では、農業の集約性、資本主義的性格、労働の生産性(農産物販売額)のいずれの

第7表 総括表 (1959年)

(数字は総数にたいする%, 横の欄を3つ合計すると100になる)²²⁾

		経済階層別分類			地 域 別 分 類			農場の型別分類			
		資本主義的	中 位	非資本主義的	集約的な地域	南 部	粗放的な地域	高度に資本主義的	中 位	低度に資本主義的	
農 場 数		8.5 (2.8)	30.6	61.0	12.0 (5.2)	44.4	43.4	29.4 (4.3)	16.4	54.2	経営の粗放性の 指標
総土地面積		37.2 (22.4)	35.9	26.9	10.0 (6.8)	31.8	57.8	17.5 (2.9)	20.9	61.6	
不 変 資 本	(1) トラクター数	20.0 (8.4)	44.5	35.4	13.7 (5.7)	28.1	58.2	33.3 (5.5)	25.5	41.2	経営の集約性の 指標
	肥料使用量	37.2 (21.4)	39.1	23.6	15.8 (7.4)	46.0	37.2	45.4 (15.2)	27.1	27.5	
可変 資本	賃労働者数	52.4 (35.1)	31.1	16.6	20.2 (11.4)	54.3	24.8	62.4 (21.7)	14.7	22.9	経営の資本主義 的性格の指標
生産 規模	農産物販売額	49.9 (31.5)	37.3	12.7	20.0 (12.5)	29.1	50.4	44.0 (11.5)	21.2	34.8	(労働の生産性)

(1) ガーデン・トラクターは除く

1. 経済階層別分類

資本主義的農場: 農産物2万ドル以上販売農場 (括弧内4万ドル以上)。

中 位 の 農 場: 農産物5,000~2万ドルの販売農場。 非資本主義的農場: 農産物5,000ドル以下の販売農場。

2. 地域別分類

集約的な地域: 太平洋岸諸州, 東北部 (括弧内は太平洋岸諸州)。

南 部: 大西洋岸南部諸州, 中部南東諸州, 中部南西諸州。

粗放的な地域: 中西部, 山地諸州。

3. 農場の型別分類

高度に資本主義的農場: 野菜, 果物, その他の畑作, 種々のもの, 綿花, タバコ, 酪農, 家禽農場 (括弧内は前四者のみ)。

中 位 の 農 場: 商業的穀作, 普通作農場。

低度に資本主義的農場: 肉畜, 牧畜農場, 「その他の農場」。

22) ただし, 地域別分類では太平洋岸諸州からハワイ・フランスカ州を除いているので合計が100に達しない。

指標も、ここでは平均よりはるかに高い。すなわち、土地面積は全体の10%なのに、トラクターと肥料を各々14, 16%, 賃労働者と農産物をともに20%集積・集中している。単位面積当りでは、賃労働者・農産物は平均の2倍（土地面積の10%に対し、賃労働者、農産物販売額は20%）も集中している。とくに、太平洋岸諸州のわずか5.2%の農場が合衆国全体の賃労働者の11%, 農産物の13%を集中している。

他方、粗放的な地域では43%の農場が、58%の土地を集中しているが、肥料は37%, 賃労働者は25%で、農業の集約性、資本主義的性格を示す諸指標は平均よりはるかに低く、単位面積当りで肥料は平均の6割、賃労働者はわずか4割にすぎない。粗放的な地域で普及しているトラクターでさえ、単位面積当りでは（土地面積58%に対しトラクター数も58%）アメリカ全体の平均である。

アメリカで農場数のもっとも多い南部（44%）では、粗放性の指標も集約性（トラクター）や労働生産性の指標も一般に平均よりはるかに低く、零細経営が多いことを示している。一農場当りでは、トラクター数も農産物販売額も平均の65%前後にすぎない。

以上の地域間の比較から明らかなように、生産手段、賃労働、生産規模、いずれの面からみても集約的な地域の集積・集中は粗放的な地域のそれよりはるかに進んでいる。とくに、太平洋岸諸州は商業作物を中心に急速に集積・集中を強め、今や東北部にかわってアメリカ農業の最先進地域になっている。

最後に農場の型による分類を検討しよう。高度に資本主義的な商業作物は、集約性も生産規模も平均よりはるかに高い。すなわち、土地面積は全体の18%なのに、トラクターと肥料は各々33%, 45%, 農産物は44%を集中している。資本主義的性格の指標である賃労働者数は、62%と賃労働者総数の大部分を集中している。単位面積当りで計算すると、賃労働者は平均の3.6倍（18%の土地面積に対し62%の賃労働者）、肥料、農産物販売額は平均の約2.5倍である。とくに高度に集約的な商業作物の集積はいちじるしい。農場総数のわずか4%, 総土地面積の3%を占める集約的な商業作物は、トラクターの6%, 肥料の15

%, 農産物の12%を集中している。賃労働者に関しては、実に22%と一農場当りで平均の約5倍、単位面積当りでは平均の7倍以上になる。他方、低度に資本主義的な経営は、農場の半数以上(54%), 総土地面積の6割を占めているが、肥料や賃労働者、農産物の集積は一般に非常に低い。単位面積当りで計算すると、肥料や賃労働者は平均の4割前後、農産物の販売額で平均の半分にすぎない。中位の穀物や飼料作物農場は両者の中間的な傾向を示している。

以上のように商業作物、とりわけ高度に集約的な作物の農場は、粗放的な肉畜や穀物農場にくらべてあらゆる点で著しい集積・集中を進めている。

これまで三分類を比較・対照した第7表でアメリカ農業の全貌を総括してきた。この総括から、現代アメリカ農業の進化・発展の性格を次のように結論することができる。

現代アメリカ農業では、① 農業生産の賃労働者に対する依存度がますます増大しており、② 農業の機械化が急速に進展している。③ さらに、アメリカ農業は地域や作物の特殊性により不均等に多種多様な形態をとって発展している。とりわけ商業的作物の成長がめざましく、この作物を栽培している太平洋岸諸州(とくにカリフォルニア州)の発展が顕著である。④ 農業生産の不均等な発展過程で、大経営は賃労働者や生産手段・農産物を集積・集中し、小経営を駆逐している。この集積・集中という点でも太平洋岸諸州は他地域を凌駕している。⑤ かくして1910年～1959年の半世紀間に、アメリカ農業の最先進地域は東北部から太平洋岸諸州に移った。現代アメリカ農業は、このパイロットの役割をはたす太平洋岸諸州を筆頭に、農業の資本主義化が進んでおり、資本主義の一般法則が貫徹されている。